

GA-AX370-Gaming K3

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-AX37GK3-1001R



製品の詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



地球温暖化の影響を軽減するために、本製品の梱包材料はリサイクルおよび再使用可能です。GIGABYTEは、環境を保護するためにお客様と協力いたします。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: **Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany**

Declare that the product

Product Type: **Motherboard**

Product Name: **GA-AX370-Gaming K3**

conforms with the essential requirements of the following directives:

☒ EMC Directive 2014/30/EU:

- | | |
|--|---------------------------|
| ☒ Conduction & Radiated Emissions: | EN 55022:2010/AC2011 |
| ☒ Immunity: | EN 55024:2010 |
| ☒ Power-line harmonics: | EN 61000-3-2:2006+A2:2009 |
| ☒ Power-line flicker: | EN 61000-3-3:2013 |

☒ Low Voltage Directive 2014/35/EU:

- | | |
|---|--|
| ☒ Safety: | EN60950-1:2006+A11:2009+A12:2011+A2:2013 |
|---|--|

☒ RoHS Directive 2011/65/EU

- | | |
|---|--|
| ☒ Restriction of use of certain substances in electronic equipment: | This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive, |
|---|--|

☒ CE marking



Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Mar. 9, 2017

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: **G.B.T. INC. (U.S.A.)**

Address: **17358 Railroad Street**

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-AX370-Gaming K3

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Mar. 9, 2017

著作権

© 2017 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

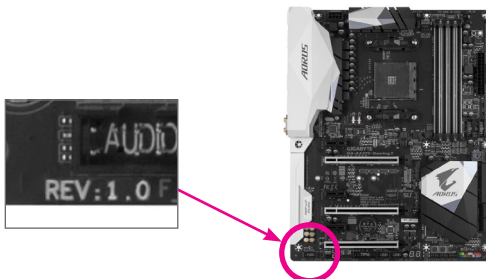
このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：
<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

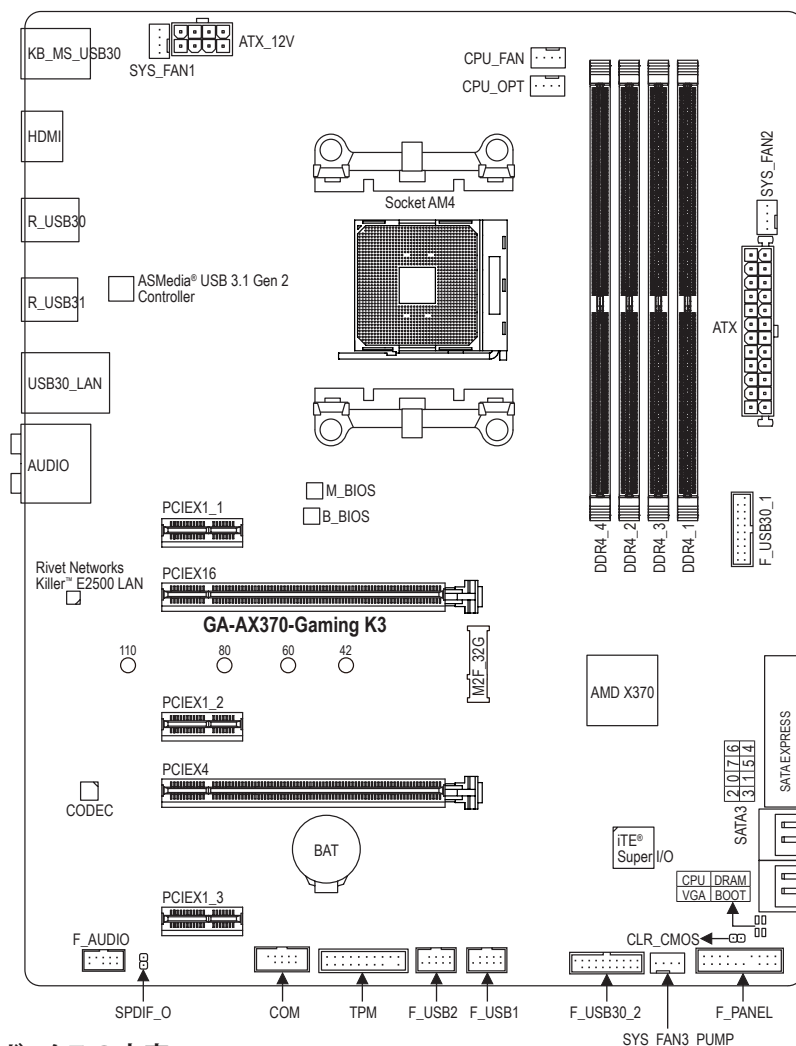
例:



目次

GA-AX370-Gaming K3 マザーボードのレイアウト	4
第 1 章 ハードウェアの取り付け	5
1-1 取り付け手順	5
1-2 製品の仕様	6
1-3 CPU を取り付ける	9
1-4 メモリの取り付け	9
1-5 拡張カードを取り付ける	10
1-6 背面パネルのコネクター	10
1-7 内部コネクター	12
第 2 章 BIOS セットアップ	20
2-1 起動画面	20
2-2 M.I.T.	21
2-3 System (システム)	25
2-4 BIOS (BIOS の機能)	26
2-5 Peripherals (周辺機器)	29
2-6 Chipset (チップセット)	31
2-7 Power (電力管理)	32
2-8 Save & Exit (保存して終了)	34
第 3 章 付録	35
3-1 RAID セットを設定する	35
3-2 ドライバのインストール	37
規制声明	38
連絡先	40

GA-AX370-Gaming K3 マザーボードのレイアウト



ボックスの内容

- ☑ GA-AX370-Gaming K3マザーボード
- ☑ マザーボードドライバディスク
- ☑ ユーザーズマニュアル
- ☑ クイックインストールガイド
- ☑ SATAケーブル (x4)
- ☑ I/O シールド
- ☑ G コネクター (x1)

* 上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品/パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを接続するまたは抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温または湿った環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。
- アダプタ、延長電源ケーブルまたはテーブルタップを使用する場合は、その取り付けおよび接続手順を必ずお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	- AM4 ソケット: - AMD Ryzen™ プロセッサ - AMD第7世代A-series/Athlon™ プロセッサ (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
 チップセット	AMD X370
 メモリ	- 最大 64 GB のシステムメモリをサポートする DDR4 DIMM ソケット (x4) - デュアルチャンネルメモリ対応 - DDR4 2667^(注) /2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート - ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8 メモリモジュールのサポート (非 ECC モードで動作) - 非ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8/1Rx16 メモリモジュールのサポート - XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	- 統合グラフィックスプロセッサ: - HDMIポート(x1)、4096x2160@24 Hzの最大解像度をサポートします。 * HDMIバージョン1.4をサポート。 - 最大 2GB までのメモリをシェア可能
 オーディオ	- Realtek® ALC1220 コーデック - ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル - S/PDIFアウトのサポート
 LAN	Rivet Networks Killer™ E2500 LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	- PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCIEX16)^(注) * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けられない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。(PCI Express x16スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています。) - PCI Express x16 スロット (x1)、x4で動作 (PCIEX4) - PCI Express x1 スロット (x3) * PCIEX4スロットは、PCIEX1_2とPCIEX1_3スロットとバンド幅を共有します。PCIEX4スロットは、PCIEX1_2またはPCIEX1_3スロットが実装されている場合、最大x2モードで動作します。PCIEX4スロットは、PCIEX1_2スロットとPCIEX1_3スロットの両方が使用していない場合、最大x4モードで動作します。 (PCIEX4 および PCI Express x1スロットはPCI Express 2.0規格に準拠しています。)
 マルチグラフィックス技術	AMD Quad-GPU CrossFire™と2-way AMD CrossFire™テクノロジーのサポート
 ストレージインターフェイス	- M.2 コネクタ (x1) (Socket 3、M key、タイプ 2242/2260/2280/22110 SATA と PCIe x4^(注) /x2 SSD 対応) - SATA Express コネクタ (x2) - SATA 6Gb/s コネクタ (x8) - SATA RAID 0、RAID 1 および RAID 10 のサポート * M.2、および SATA コネクタでサポートされる構成については、「1-7 内部コネクタ」を参照してください。

(注) 実際のサポートはCPUによって異なる場合があります。

 USB	- ASMedia® USB 3.1 Gen 2 コントローラー： - 背面パネルに USB 3.1 Gen 2 Type-A ポート(赤)搭載 (x2) - CPU： - 背面パネルに 4 つの USB 3.1 Gen 1 ポート - チップセット： - USB 3.1 Gen 1 ポート (x6) (背面パネルに2つのポート、内部USBヘッダを通して4ポートが使用可能) - USB 2.0/1.1 ポート (x4) 内部USBヘッダ経由で使用可能
 内部コネクタ	24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) - CPU ファンヘッダ (x1) - 水冷CPUファンヘッダ (x1) - システムファンヘッダ (x2) - システムファン/水冷ポンプ用ヘッダ (x1) - SATA Express コネクタ (x2) - SATA 6Gb/s コネクタ (x8) - M.2 ソケット3 コネクタ (x1) - 前面パネルヘッダ (x1) - 前面パネルオーディオヘッダ (x1) - S/PDIF アウトヘッダ (x1) - USB 3.1 Gen 1 ヘッダ (x2) - USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) - シリアルポートヘッダ (x1) - トラステッドプラットフォームモジュール(TPM)ヘッダ (x1) - CMOSクリアジャンパ (x1)
 背面パネルの コネクタ	- PS/2 キーボード/マウスポート (x1) - HDMIポート (x1) - USB 3.1 Gen 2 Type-A ポート (赤) (x2) - USB 3.1 Gen 1 ポート (x6) - RJ-45ポート (x1) - 光学 S/PDIF アウトコネクタ (x1) - オーディオジャック (x5) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
 I/O コント ローラー	iTE® I/O コントローラーチップ
 ハードウェア モニタ	- 電圧検知 - 温度検知 - ファン速度検知 - オーバーヒート警告 - ファン異常検知 - ファン速度コントロール * ファン (水冷ポンプ)速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラー ファン (水冷ポンプ)によって異なります。
 BIOS	128 Mbit フラッシュ (x2) - 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 - DualBIOS™ のサポート - PnP 1.0a、DMI 2.7、WfM 2.0、SM BIOS 2.7、ACPI 5.0

	独自機能	◆ APP Center のサポート * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - 3D OSD - Ambient LED - AutoGreen - BIOS Setup - Cloud Station - Color Temperature - EasyTune - Fast Boot - Game Boost - ON/OFF Charge - Smart Backup - Smart Keyboard - Smart TimeLock - System Information Viewer - USB Blocker - USB DAC-UP 2 - V-Tuner ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート
	バンドルされたソフトウェア	◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
	オペレーティングシステム	◆ Windows 10 64-bit のサポート ◆ Windows 7 64-bit のサポート * Windows 7をインストールする前に、GIGABYTEのWebサイトから「Windows USB Installation Tool」をダウンロードし、Windows 7インストール用USBメモリを作成してWindows 7起動可能なUSBメモリから起動してインストールしてください。
	フォームファクタ	◆ ATXフォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。



CPU、メモリモジュール、SSD、および M.2 デバイスのサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください。



アプリの最新バージョンをダウンロードするには、GIGABYTE の Web サイトのサポートユーザーティリストページにアクセスしてください。

1-3 CPU を取り付ける



CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

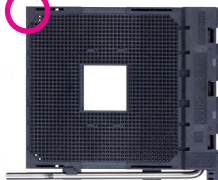
- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

CPU ソケットのピン 1 (小さな三角形で表示) と CPU を確認します。

小さな三角形のマークは、ソケットのピン 1 を示します

AM4 ソケット



小さな三角形のマーキングは CPU ピン 1 を示します

AM4 CPU



1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには 4 つのメモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を 2 倍に広げます。

4 つのメモリソケットが 2 つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように 2 つのメモリソケットがあります:

- ▶ チャンネル A: DDR4_2, DDR4_4
- ▶ チャンネル B: DDR4_1, DDR4_3



ハードウェア取り付けに関する詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

▶デュアルチャンネルメモリ構成表

	DDR4_4	DDR4_2	DDR4_3	DDR4_1
2つのモジュール	--	DS/SS	--	DS/SS
	DS/SS	--	DS/SS	--
4つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

(SS=片面、DS=両面、「-」=メモリなし)

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

1. メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
2. 2または4枚のモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR4_1とDDR4_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

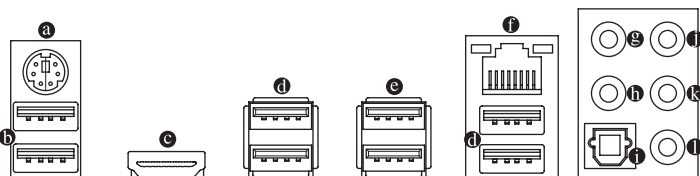
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- ・ 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ・ ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



① PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

② USB 3.1 Gen 1 ポート

USB 3.1 Gen 1 ポートは USB 3.1 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートに USB DAC を接続したり、このポートを USB デバイス用に使用したりすることができます。

③ HDMI ポート

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMI ポートは HDCP に対応し、ドルビー TrueHD および DTS HD マスター オーディオ形式をサポートしています。最大 192KHz/24 ビットの 8 チャンネル LPCM オーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMI をサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は 4096x2160@24 Hz ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。)

④ USB 3.1 Gen 1 ポート

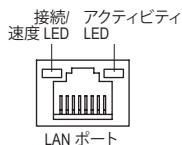
USB 3.1 Gen 1 ポートは USB 3.1 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

④ USB 3.1 Gen 2 Type-A ポート (赤)

USB 3.1 Gen 2 Type-A ポートは USB 3.1 Gen 2 仕様をサポートし、USB 3.1 Gen 1 および USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

⑤ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

⑥ センター/サブウーファースピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオ端子を使って、5.1/7.1 チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑦ リアスピーカーアウト (黒)

この端子は 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でリアスピーカーを接続するために使用することができます。

⑧ 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

⑨ ラインイン (青)

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオ端子を使用します。

⑩ ラインアウト (緑)

ラインアウト端子です。この音声出力ジャックは、音声増幅機能をサポートしています。より良い音質をご使用いただく場合、このジャックにヘッドフォン/スピーカーに接続することを推奨します。(実際の効果は、使用されているデバイスによって異なる場合があります)。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオ端子を使用します。この端子は 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑪ マイクイン (ピンク)

マイクイン端子です。

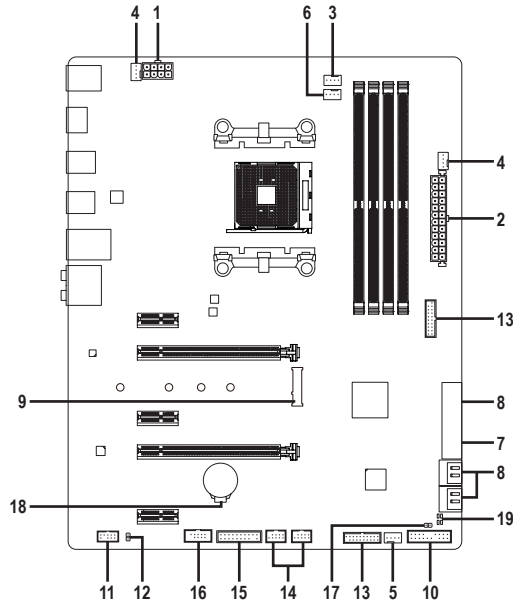


- ・ ライン出力端子のオーディオアンプ機能の設定は、HD Audio Managerアプリケーションにアクセスしてください。
- ・ サイドスピーカーを使用する場合は、ライン入力とマイク入力端子に接続してから HD Audio Managerアプリケーションを使用して、サイドスピーカー出力に設定する必要があります。
- ・ オーディオソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトにご確認ください。



- ・ 背面/パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ・ ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

1-7 内部コネクター



1) ATX_12V	11) F_AUDIO
2) ATX	12) SPDIF_O
3) CPU_FAN	13) F_USB30_1/F_USB30_2
4) SYS_FAN1/2	14) F_USB1/F_USB2
5) SYS_FAN3_PUMP	15) TPM
6) CPU_OPT	16) COM
7) SATA EXPRESS	17) CLR_CMOS
8) SATA3 0/1/2/3/4/5/6/7	18) BAT
9) M2F_32G	19) CPU/VGA/DRAM/BOOT
10) F_PANEL	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX 12V/ATX (2x4 12V 電源コネクターと 2x12 メイン電源コネクター)

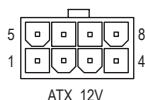
電源コネクターを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクターを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクターは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクターに接続します。

12V 電源コネクターは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクターが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。



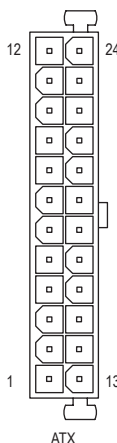
拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。

ATX_12V_2X4:



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	GND (2x4ピン12Vのみ)	5	+12V (2x4ピン12Vのみ)
2	GND (2x4ピン12Vのみ)	6	+12V (2x4ピン12Vのみ)
3	GND	7	+12V
4	GND	8	+12V

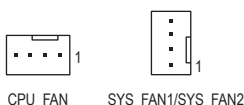
ATX:



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	NC
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/2 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクターワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンプブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) SYS_FAN3 PUMP (システムファン/水冷ポンプ用ヘッダ)

ファン/水冷ポンプヘッダは4ピンで、簡単に接続できるように設計されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。水冷ポンプ用ファンヘッダの速度制御については、第2章を参照してください。「BIOSセットアップ」、「M.I.T.」にて情報が確認できます。



ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御

6) CPU_OPT (水冷式 CPU ファンヘッダ)

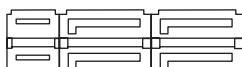
ファンヘッダは4ピンで、簡単に接続できるように設計されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。



ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御

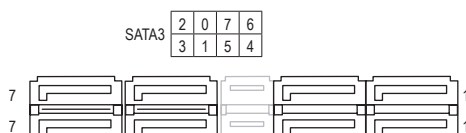
7) SATA EXPRESS (SATA Express コネクタ)

各SATA Express コネクタは、単一の SATA Express デバイスをサポートします。



8) SATA3 0/1/2/3/4/5/6/7 (SATA 6Gb/s コネクタ)

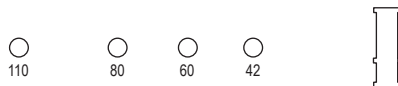
SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。SATA コネクタは、RAID 0、RAID 1、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

9) M2F 32G (M.2 ソケット3 コネクター)

M.2 コネクターは、M.2 SATA SSD および M.2 PCIe SSD をサポートし、AMD チップセットを通して SATA RAID 構成をサポートします。M.2 PCIe SSD を使用した場合は RAID アレイを構築することはできません。RAID アレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



M.2 コネクターに M.2 対応 SSD に増設する場合、以下の手順に従ってください。

ステップ 1:

スクリュードライバーを使用してマザーボードからネジとナットを緩めてください。取り付け穴の位置を確認してから、最初にナットを締めます。

ステップ 2:

コネクターに斜めの角度で M.2 対応 SSD をスライドさせます。

ステップ 3:

M.2 対応 SSD を下に押してからネジで固定します。



インストールする M.2 対応 SSD を固定する適切な穴を選択し、ネジとナットを締め直してください。

M.2、および SATA のコネクターをご使用の際の注意事項:

チップセットによるレーン数が限られているため、SATA コネクターは M2F 32G に接続されたデバイスによって、使用できる数が変わります。M2F 32G コネクターは、SATA3 3 コネクターとバンド幅を共有します。詳細に関しては、次の表をご参照ください。

M.2 SSD の種類 \ コネクター	SATA3 0	SATA3 1	SATA3 2	SATA3 3	SATA3 4	SATA3 5	SATA3 6	SATA3 7
M.2 SATA SSD	✓	✓	✓	✕	✓	✓	✓	✓
M.2 PCIe x4 SSD *	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 SSD を使用していない場合	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓: 利用可能、✕: 利用不可

* AMD Ryzen™ プロセッサのみ。

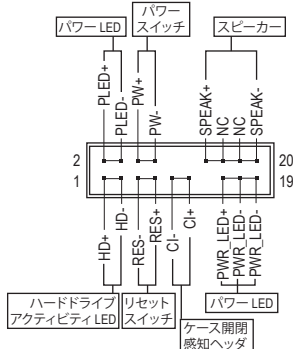
10) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン配列に従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知ヘッダ、ケースのインジケータ（パワースイッチLEDやHDD LEDなど）を接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。

• PLED/PWR_LED (電源LED、黄/紫):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。



• PW (パワースイッチ、赤):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」、「電力管理」を参照してください)。

• SPEAK (スピーカー、オレンジ):

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。

• HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

• RES (リセットスイッチ、緑):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• CI (PCケース開閉感知ヘッダ、グレー):

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース開閉感知スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。

• NC (オレンジ): 接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

11) F. AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。

HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	MIC2_L	6	検知
2	GND	7	FAUDIO_JD
3	MIC2_R	8	ピンなし
4	NC	9	LINE2_L
5	LINE2_R	10	検知

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	MIC	6	NC
2	GND	7	NC
3	MIC/パワー	8	ピンなし
4	NC	9	ラインアウト(左)
5	ラインアウト(右)	10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

12) SPDIF_O (S/PDIF出力用ヘッダ)

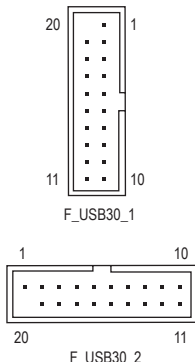
このヘッダはデジタルS/PDIF出力をサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル(拡張カードに付属)を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

13) F_USB30_1/F_USB30_2 (USB 3.1 Gen 1 ヘッダ)

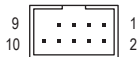
ヘッダはUSB 3.1/USB2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.1 Gen 1対応2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし

14) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダはUSB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各USBヘッダは、オプションのUSBブラケットを介して2つのUSBポートを提供できます。オプションのUSBブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



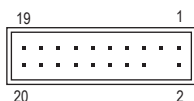
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

15) TPM (TPMモジュール用ヘッダ)

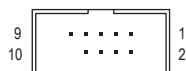
TPM (TPMモジュール) をこのヘッダに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LCLK	11	LAD0
2	GND	12	GND
3	LFRAME	13	NC
4	ピンなし	14	NC
5	LRESET	15	SB3V
6	NC	16	SERIRQ
7	LAD3	17	GND
8	LAD2	18	NC
9	VCC3	19	NC
10	LAD1	20	NC

16) COM (シリアルポートヘッダ)

COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	NDCD-	6	NDSR-
2	NSIN	7	NRTS-
3	NSOUT	8	NCTS-
4	NDTR-	9	NRI-
5	GND	10	ピンなし

17) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。



オープン: Normal



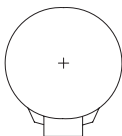
ショート: CMOSのクリア



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

18) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1 分待ちます。(または、ドライバのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

19) CPU/VGA/DRAM/BOOT (ステータス LED)

ステータスLEDは、システムの電源投入後にCPU、グラフィックスカード、メモリ、およびオペレーティングシステムが正常に動作状態を表示します。CPU/VGA/DRAM LEDが点灯している場合は、対応するデバイスが正常に動作していないことを意味します。BOOT LEDが点灯している場合、オペレーティングシステムを読み込んでいないことを意味します。



CPU	DRAM
VGA	BOOT

CPU: CPUステータスLED

VGA: グラフィックスカード・ステータスLED

DRAM: メモリ・ステータスLED

BOOT: オペレーティングシステムステータスLED

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフテスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティングシステムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

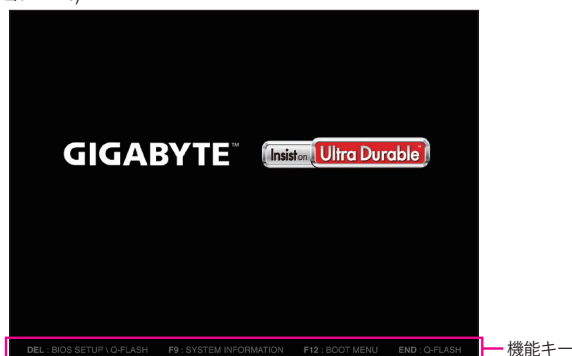


- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値をクリアする方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパのクリアの概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。

(サンプル BIOS バージョン: F1c)



<F2>キーを使用することにより、3つの異なるBIOSのモードを切り替えることができます。

Classic Setup モードは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。Easy モードは、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy モードでは、マウスを使用して設定や設定画面項目間の移動を行うことができます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 M.I.T.



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

▶ Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)

☞ CPU Clock Control

CPUクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)

重要: CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ Host Clock Value

現在のホストクロックの周波数を表示します。

☞ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けの CPU によって異なります。

☞ CPU Frequency

現在作動している CPU 周波数を表示します。

▶ Advanced CPU Core Settings (CPUの詳細設定)

☞ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

☞ Core Performance Boost^(注)

コアパフォーマンスブースト (CPB) 技術の有効/無効の設定をします。(既定値: Auto)

☞ Core Performance Boost Ratio^(注)

CPBの速度を変更します。調整可能範囲は、取り付けのCPUによって異なります。(既定値: Auto)

☞ Turbo Performance Boost Ratio^(注)

CPUパフォーマンスの有効/無効の設定をします。(既定値: Disabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

- **AMD Cool&Quiet function**
 - Enabled AMD Cool'n'QuietドライバーはCPUとVIDをダイナミックに調整し、コンピュータからの発熱とその消費電力を減少します。(既定値)
 - Disabled この機能を無効にします。
- **SVM Mode**
仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値:Disabled)
- **C6 Mode** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPUがC6モードに入るかどうかを決定します。有効に設定した場合、CPUコアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。C6状態は、C1より省電力状態はるかに強化されています。(既定値:Enabled)
- **Global C-state Control** (注1)
CPUのCステート状態の設定ができます。有効に設定した場合、CPUコアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。(既定値:Enabled)
- **SMT Mode** (注1)
CPU Simultaneous Multi-Threading 機能を有効または無効に設定できます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Downcore Control** (注1)
有効にするCPUコアの数を選択できます (CPUコアの数はCPUによって異なる場合があります)。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)
有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。
 - Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - Profile1 プロファイル 1 設定を使用します。
 - Profile2 (注2) プロファイル 2 設定を使用します。
- **System Memory Multiplier**
システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)
- **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。
- ▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)、**System Memory Multiplier**、**Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
- **Memory Timing Mode**
Manual と **Advanced Manual** では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。
- **Profile DDR Voltage**
Non-XMPメモリモジュール、または**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** を使用する場合は**Disabled** に設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。**Extreme Memory Profile (X.M.P.)** が **Profile 1** または **Profile 2** に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

☞ **Channel Interleaving**

メモリチャンネルのインターリーピングの有効または無効に設定できます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **Rank Interleaving**

メモリランクのインターリーピングの有効または無効に設定できます。**Enabled** (有効) 設定すると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

▶ **Channel A/B Memory Sub Timings**

このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode** が **Manual** または **Advanced Manual** の場合のみ設定可能です。注: メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**

このサブメニューにより、CPU、チップセット、およびメモリ電圧の設定が可能になります。

▶ **PC Health Status**

☞ **Reset Case Open Status**

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

☞ **Case Open**

マザーボードの CI ヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

☞ **CPU Vcore/CPU VDDP/DRAM Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/+12V/VCORE SOC**

現在のシステム電圧を表示します。

▶ **Miscellaneous Settings (その他の設定)**

☞ **PCIe Slot Configuration**

PCI Express スロットの動作モードを Gen 1、Gen 2、または Gen 3 に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **3DMark01 Enhancement**

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値: Disabled)

▶ **Smart Fan 5 Settings**

☞ **Monitor**

ターゲットを切り替えることによってモニタ表示することができます。(既定値: CPU FAN)

☞ **Fan Speed Control**

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewer でファン速度を調整することができます。(既定値)
- ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
- ▶ Manual グラフ上でファンの速度制御を設定ができます。
- ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

- ☞ **Fan Control Use Temperature Input**
ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。
- ☞ **Temperature Interval**
ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。
- ☞ **Fan/Pump Control Mode**
 - ▶ Auto BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。(既定値)
 - ▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。
 - ▶ PWM PWMモードは、4ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。
- ☞ **Temperature**
選択された領域の、現在の温度を表示します。
- ☞ **Fan Speed**
現在のファン/ポンプ速度を表示します。
- ☞ **Temperature Warning Control**
温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOSが警告音を発します。
オプション：Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- ☞ **Fan/Pump Fail Warning**
ファン/水冷ポンプ用ファンが接続されている状態で異常が発生した場合、システムは警告を知らせます。警告があった場合、ファン/水冷ポンプ用ファンの接続状態を確認してください。(既定値：Disabled)

2-3 System (システム)



このセクションでは、マザーボードモデルおよびBIOSバージョンの情報を表示します。また、BIOSが使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

System Language

BIOSが使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator** (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-4 BIOS (BIOS の機能)



Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイスリストでは、GPT形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPTパーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

Bootup NumLock State

POST後にキーボードの数字キーパッドにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: On)

Security Option

パスワードは、システムが起動時、またはBIOSセットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOSメインメニューの Administrator Password/User Password アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードはBIOSセットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶ System パスワードは、システムを起動したりBIOSセットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。Disabled にすると、システム起動時にGIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

Fast Boot

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。Ultra Fast では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

☞ SATA Support

- ☛ All SATA Devices オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 SATA デバイスは機能します。
- ☛ Last Boot HDD Only 以前の起動ドライブを除いて、すべての SATA デバイスは、OS 起動プロセスが完了するまで無効になります。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ VGA Support

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

- ☛ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。
- ☛ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ USB Support

- ☛ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になります。
- ☛ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。(既定値)
- ☛ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になります。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ PS2 Devices Support

- ☛ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になります。
- ☛ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ NetWork Stack Driver Support

- ☛ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)
- ☛ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ Windows 10 Features

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)

☞ CSM Support

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

- ☛ Enabled UEFI CSMを有効にします。(既定値)
- ☛ Disabled UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。

Windows 10 Features が **Windows 10** または **Windows 10 WHQL** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ LAN PXE Boot Option ROM

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値: Disabled)

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ Storage Boot Option Control

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ☛ Disabled オプションROMを無効にします。
- ☛ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。
- ☛ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

➤ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFI またはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- Disabled オプションROMを無効にします。
- UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

➤ **Network Stack**

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

➤ **Ipv4 PXE Support**

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Ipv4 HTTP Support**

IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Ipv6 PXE Support**

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Ipv6 HTTP Support**

IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

➤ **User Password**

ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注: ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

2-5 Peripherals (周辺機器)



- ☞ **AMD CPU fTPM**
AMD CPUに統合されたTPM 2.0機能を有効/無効に設定できます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Primary Video Device^(注)**
取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - IGD Video 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - NB PCIe slot Video 第1ディスプレイとして、PCI ExpressグラフィックスカードをNorth Bridgeが制御するPCI Expressスロットに設置します。(既定値)
- ☞ **Ambient LED**
オンボードオーディオLED機能の有効/無効を切り替えます。
 - Off この機能を無効にします。
 - Still Mode LED は常時点灯します。(既定値)
 - Beat Mode 音楽のリズムに合わせて LED の明るさが変化します。
 - Pulse Mode LED の明るさは息のようにゆっくりと滑らかに変化します。
- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)
- ☞ **XHCI Hand-off**
XHCIハンドオフに対応していないOSでも、XHCI/ハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。(既定値: Enabled)
- ☞ **EHCI Hand-off**
EHCIハンドオフに対応していないOSでも、EHCI/ハンドオフ機能を有効化/無効化に設定できます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Port 60/64 Emulation**
入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。(既定値: Disabled)
- ☞ **USB Mass Storage Driver Support**
USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

➤ **USB Storage Devices**

接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。

➤ **DAC-UP 2 Rear USB 3.0 (バックパネルUSB 3.1 Gen 1ポートの出力電圧)**

バックパネルUSB 3.1 Gen 1 ポート(PS/2 キーボード/マウスポートの下に配置されたもの)の出力電圧を増加させ、USB機器の安定性を向上させることが可能です。

- | | |
|------------------------------|---|
| ➤ Normal | 規定の出力電圧を維持します。(既定値) |
| ➤ Disable USB bus power | USB端子の出力電圧を無効化します。高性能オーディオ機器などの外部電源をもつUSB機器を接続できます。 |
| ➤ Voltage Compensation +0.1V | 規定出力電圧に0.1V足します。 |
| ➤ Voltage Compensation +0.2V | 規定出力電圧に0.2V足します。 |
| ➤ Voltage Compensation +0.3V | 規定出力電圧に0.3V足します。 |

▶ **Trusted Computing**

Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。

▶ **Super IO Configuration (スーパー I/Oの構成)**

➤ **Serial Port 1**

オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

▶ **NVMe Configuration**

取り付けられている場合、M.2 NVME PCIe SSD に関する情報を表示します。

▶ **OffBoard SATA Controller Configuration**

取り付けられている場合、M.2 PCIe SSD に関する情報を表示します。

2-6 Chipset (チップセット)



- ☞ **IOMMU**
AMD IOMMUサポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Auto)
- ☞ **Integrated Graphics** ^(注)
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。
 - ▶ Auto グラフィックスカードがインストールされているかによって、BIOSはオンボードグラフィックスを自動で有効または無効にします。(既定値)
 - ▶ Disabled オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。
- ☞ **UMA Frame Buffer Size** ^(注)
フレーム/バッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション:Auto (既定値)、32M、64M、128M、256M、512M、1G、2G。
- ☞ **SATA Mode**
チップセットに統合された SATA コントローラー用の RAID の有効 / 無効を切り替えるか、SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。
 - ▶ RAID SATA コントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
 - ▶ AHCI SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
- ☞ **Chipset SATA Port Enable**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Chipset SATA Port 0/1/2/3/4/5/6/7**
各SATAポートを有効または無効にします。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

2-7 Power (電力管理)



AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- ▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)

Power On By Keyboard

PS/2 キーボードの呼び起こしイベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Password 1-5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。
- ▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

Power On Password

Power On By Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Move マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)

注: このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。

☞ **Soft-Off by PWR-BTTN**

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ **Resume by Alarm**

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

- ▶▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
- ▶▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

☞ **Wake on LAN**

呼び起こし LAN 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ **High Precision Event Timer**

High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

2-8 Save & Exit (保存して終了)



- **Save & Exit Setup**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Exit Without Saving**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**
直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**
この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter> を押して終了します。または **Select File in HDD/FDD/USB** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- **Load Profiles**
システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 付録

3-1 RAID セットを設定する

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数/2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい

始める前に、以下のアイテムを用意してください：

- 少なくとも1台の SATA ハードドライブまたは M.2 SATA SSD。(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを2台使用することをお勧めします)。(注)
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ

オンボード SATA コントローラを設定する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

HDDまたはSSDを接続のSATA/M.2 コネクタに接続してください。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定する

SATA コントローラーコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ：

1. コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。Chipset設定の **Chipset SATA Port Enable** が有効になっていることを確認します。**SATA Mode** を **RAID** に設定します。次に設定を保存し、コンピュータを再起動します。
2. UEFI RAID を構成する場合は「C-1」のステップに従ってください。従来の RAID ROM に入るには、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。詳細情報については「C-2」を参照してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C-1.UEFI RAID の設定

Windows 10 64bitのみUEFI RAID構成をサポートしています。

ステップ：

1. BIOS セットアップで、BIOS に移動し、**Windows 10 Features** を **Windows 10** に、**CSM Support** を **Disabled** に設定します。変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。
2. システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて **Peripherals\RAIDXpert2 Configuration Utility** サブメニューに入ります。
3. **RAIDXpert2 Configuration Utility** 画面で、**Array Management** の <Enter> を押して **Create Array** の画面に入ります。RAID レベルを選択します。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、と RAID 10 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、**Select Physical Disks** 画面で <Enter> を押して、**Select Physical Disks** の画面に入ります。
4. **Select Physical Disks** の物理ディスクの選択画面で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択し、**Enabled** (有効) に設定します。次に、下矢印キーを用いて **Apply Changes** に移動し、<Enter> を押します。そして、前の画面に戻り、**Array Size**、**Array Size Unit**、**Read Cache Policy**、および **Write Cache Policy** を設定します。

(注) M.2およびSATAコネクタでサポートされる構成については、「1-7 内部コネクタ」を参照してください。

5. 容量を設定後、**Create Array** に移動し、<Enter> を押して開始します。
6. 完了すると、**Array Management** 画面に戻ります。**Manage Array Properties**の設定で、新しいRAIDボリュームと、RAIDレベル、アレイ名、アレイ容量などの情報が表示されます。

C-2.Legacy RAID ROMを設定する

従来の RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。ステップ:

1. POSTメモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-F> to enter RAID Option ROM Utility」。<Ctrl> + <R>を押してRAID BIOSセットアップユーティリティに入ります。
2. 新しいアレイを作成するには、Create Arrayオプションで <Enter> を押します。
3. 選択バーが画面右の **Disks**(ディスク)欄に移動します。RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。上下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、<Insert>(挿入)を押します。選択されたハードドライブが緑色で表示されます。全ハードドライブを使用するには、<A>を押してすべてを選択します。その後、<Enter>を押すと、選択バーが画面左下の **User Input**(ユーザー入力)欄に移動します。
4. まず、RAID モードを選択してから <Enter> を押します。使用可能な選択肢は、インストールしたハードドライブの数によって変化します。画面上の指示に従ってアレイサイズを指定します。**All available space** を選択して許容最大サイズを使用するか、または上下矢印キーを用いてサイズを調整し、<Enter>を押します。
5. キャッシュモードを選択します。選択肢は読み書き、読み取り専用、およびなしです。<Enter>を押して続行します。
6. 最後に、「Confirm Creation of Array」(アレイ作成の確認) メッセージが表示されます。<C> を押して確定するか、または <Esc> を押して前の画面に戻ります。
7. RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc>を押してから <C>を押して確定します。

SATA RAID/AHCIドライバとオペレーティングシステムをインストールする

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

オペレーティングシステムをインストール

一部のオペレーティングシステムにはすでに SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセス中に RAID/AHCI ドライバを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。インストールされているオペレーティングシステムが、OS インストールプロセス中に追加 SATA RAID/AHCI ドライバの提供を要求する場合は、以下のステップを参照してください。

1. ドライバディスクの **\Boot** フォルダにある **Hw10** フォルダをお使いの USBメモリドライブにコピーします。
2. Windows セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse**を選択します。
3. USBメモリドライブを挿入し、ドライバの場所を閲覧します。ドライバの場所は次の通りです：
\Hw10\RAID\64
4. まずは、**AMD-RAID Bottom Device**を選択し、**Next**をクリックしてドライバを読み込みます。次に、**AMD-RAID Controller**を選択し、**Next**をクリックしてドライバを読み込みます。最後に、OSのインストールを続行します。



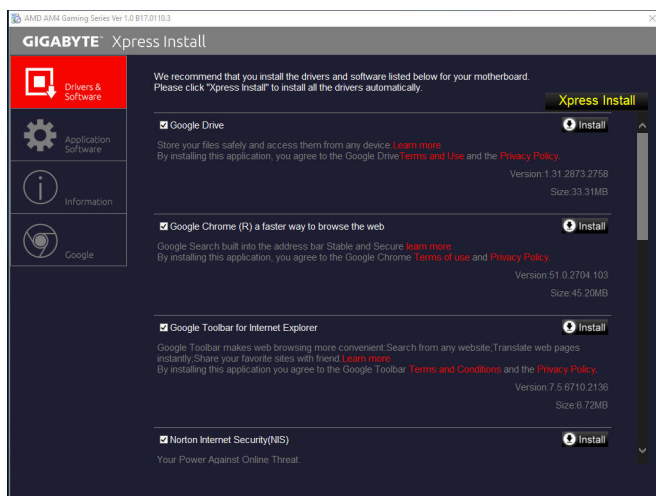
RAIDアレイの構成の詳細については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

3-2 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 10 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exe の実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Xpress Install** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。



オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。

当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS (電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE (廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス: No.6, Baoqiang Rd., Xindian Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000、ファックス+886-2-8912-4005

技術および非技術サポート(販売/マーケティング): <http://esupport.gigabyte.com>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

- **GIGABYTE eSupport**

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:
<http://esupport.gigabyte.com>

The screenshot shows the GIGABYTE eSupport website. At the top left is the GIGABYTE logo. To the right is the 'eSupport' logo. Below the logo is a navigation bar with icons for Downloads, FAQ, and Warranty. In the center, there is a 'Sign in with' section featuring social media icons for Facebook, Google+, and a generic user icon. Below this is the 'GIGABYTE Passport' login form, which includes fields for 'E-mail' and 'Password', a 'Forgot password?' link, and a 'Login' button. At the bottom of the login form, there is a link for 'Not a member yet?'. At the very bottom of the page, there is a small copyright notice: 'All intellectual property rights, including without limitation to copyright and trademark of this work and its derivative works are the property of, or are licensed to, GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. Any unauthorized use is strictly prohibited.'